

1. 子どもと「遊び」

1 何だか変わったと思いませんか？今どきの子どもの「遊び」

あなたの周りの子どもたちは、「どこで」「誰と」「どんな」遊びをしていますか。「室内や自宅の庭で」「身体を動かさず」「同年のごく限られた少人数か、一人で」の遊びになってはいませんか。

このような子どもたちの遊びの変化（「室内で・動かさず・一人で」）は、①安心して自由に遊べる場所が少ないから、②塾や稽古事で時間がないから、③集団で遊ぶ友達がいないから、④室内向けの魅力的なおもちゃが簡単に手に入るようになったからなど、子どもたちの遊び環境が昔に比べて大きく変化してきているため、今の社会ではやむを得ないことかもしれません。

しかし、こうした遊び仲間や内容の偏りは、子どもたちの心と身体の成長に大きく影響します。例えば、引きこもり・すぐキレル・いじめなども、今の子どもが“本来”の「遊び」をしていないことが影響していると考えられます。



2 「遊び」は心と身体の栄養

「よく学び、よく遊べ」という言葉があるように、昔から「遊び」は子どもにとって勉強と同じくらい大切な体験と考えられ、子どもたちは元気に遊ぶように促されてきました。

それは、人間として成長し生活していくためのさまざまな力を、「屋外で」思いっきり「身体全体」を使って「群れて」遊ぶことで、自然に身につけ、発達させていくと考えられてきたからです。どのように時代が変わり文明が発達しようとも、子どもたちは遊びをとおして「心と身体と知恵を育む」ということを忘れてはなりません。

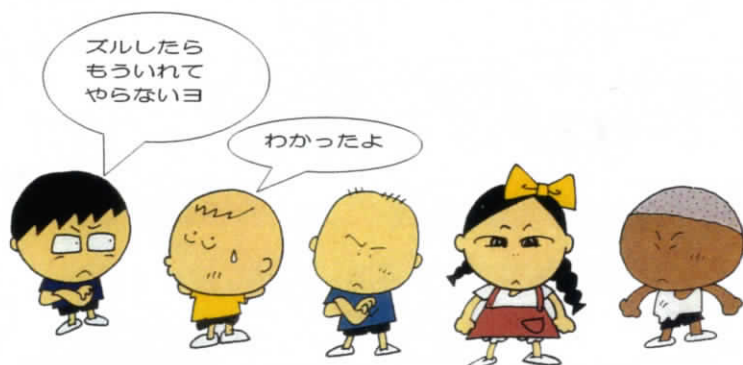
本来”の「遊び」は・・・

- ①地域で日常的に
- ②異年齢集団で
- ③外での活動的に行うものです

育まれるもの

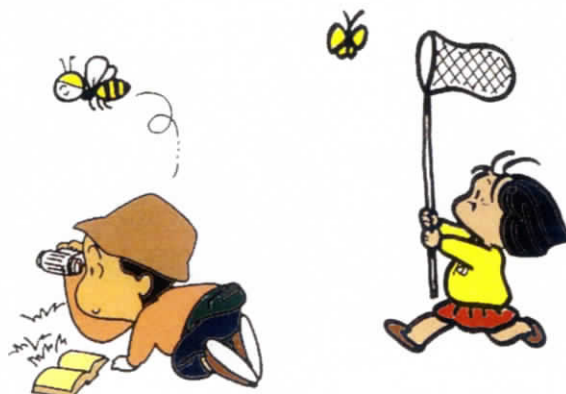
社会性を育む

円滑な人間関係や協調性、責任感、ルール、思いやりの心、リーダーシップ、話し方などさまざまな能力は、遊びのなかで子ども同士のふれあいを通じて育まれます。



生きた知識を育む

子どもたちは、遊びのなかで目・耳・皮膚など五感を通して体験し、さまざまな生きた知識を身につけていきます。それが、授業理解の基礎知識や生活の知恵になっていきます。



体力・運動能力・器用さを育む

走り回り、木に登り、取り組みあったり、道具を使ってものを作ったり、夢中になって遊んでいるうちに、体力や運動能力を自然に身につけていきます。



心の健康を保つ

遊びは外からの強制ではなく、自由な意思で「遊びたいから遊び、楽しいから遊ぶ」、そういった自発的な活動です。だからこそ、遊んでいるといつのまにか心の緊張を解消し、心理的な安定を得ることができるのです。



したがって、子どもが「遊ばない」「遊べない」ということは、こうしたことが身につかないことを意味しています！

3 “遊び” をとりもどそう!! 「子ども会」

子どもたちが積極的に遊ぶためには・・・

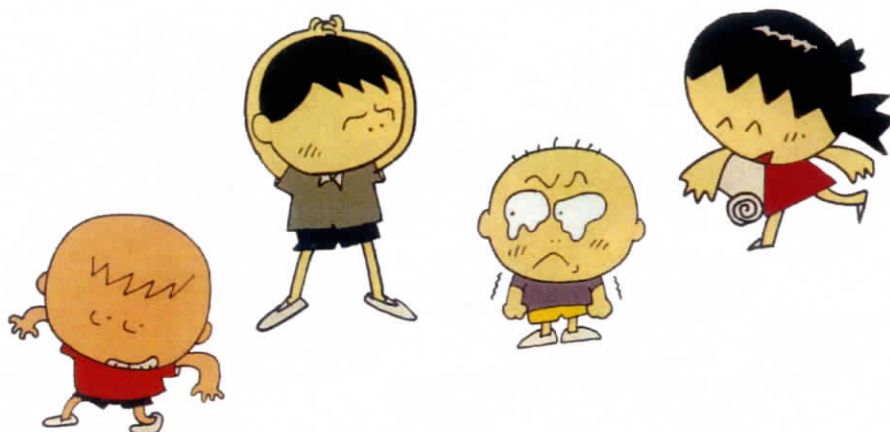
- 物理的条件 ① 時間（遊ぶゆとり）
② 空間（遊ぶ場所）
③ 仲間（遊び友達）

+

“遊びたい” という欲求や意欲・自主的に遊ぶための知識や力

子どもたちは、幼い頃から異年齢集団の中で楽しく遊ぶことで遊びの知識を身につけ、また、この遊びの積み重ねによって“遊ぶ”意欲を高めていきます。

このような“本来の遊び”を取り戻すことのできる場として、地域の「子ども会」が大切な役割をもっています。子どもたちが、“遊び”の楽しさを十分に味わい、いろいろなことを体験する「子ども会」を一緒に育てていきましょう。



※時には、遊びのなかで軽度のけんかやいたずらやトラブルも見られます。